

競馬術通信 Vol. 2

~シンプルトレーニング~

JRA 馬事公苑 北原広之

「競馬に馬術のようなハミ受けは関係ない！」

私もそれには異議はありません。なぜなら、馬術で求められている収縮を伴ったハミ受けは競馬で求める必要性がない！と前号でも述べているからです。

しかし、馬の口向きに問題がある場合はどうでしょうか？

例えば、手綱を控えたところ、馬は頭を上げたり、振ったり、騎手の拳をさらうように前へ突き出したりした場合どのように対処しますか？その場しのぎで乗り切ったとしても、納得していない馬はまた同じことを繰り返します。そうして騎手扶助をいつも無視し続ける馬が出来上がってしまいます。

人を背にして間もない競走馬は、調教が行き届いていないことが多いです。だからこそ騎手が、どうしたら良いかわからない馬を正しい道に導き、快適に走れる体勢と気持ちにしてあげることが必要です。

馬は、全力で走る際にはほとんど馬体は真っ直ぐになり、ハミ受けなど関係なくなります。だからと言って、ただ馬の上でバランスをとることが出来たら騎手の役目は終わりではないのでしょうか？そう思った時点で騎乗技術の追求は終わりです。

馬との関係性を無視していれば、調教の過程で不協和音が生じることがあります。それを見過ごしてトレーニングすることが良いとは言えません。競馬は全力で走ろうとする馬をコントロールする難しさがあります。興奮状態だけで走らせることが正解とは思えません。ハミ受けに限ったことではありませんが、色々な方法で必ず馬と人との間に約束事と信頼関係、絆を作ることをすべきです。

トラブルを生じてしまった若い馬に対して我々は、「馬術」や「競馬」などの垣根を越えた考え方と騎乗技術で修正し、馬のフィジカルとメンタルをアスリートとしてトレーニングしていけるようにしたいと思います。

高カロリーの飼料を食べさせ、坂路で負荷を掛けさせるだけでも良血統の馬は走って結果を出してしまうでしょう。しかし、我々が会う馬達は、全て天才な馬ではありません。むしろ迷っている馬ばかりではないでしょうか？だからこそ正しいと思える技術を我々が持ち、正しい方向へ馬を導いて行かなければならないのです。

まずは、正しい感覚で「ハミ受け」を求めなかったことにより、馬が示す症状から考えてみましょう。

3. 誤ったハミ受けのデメリット



となります。



「誤ったハミ受け」にはいくつかのパターンがあります。

①騎手の拳の操作を嫌い、頭頸を上げて抵抗する体勢です。この場合、馬の背中が緊張して硬くなり、後ろ肢からのパワーがハミまで到達せず透過性を失ってしまいます。当然のことですが、この体勢では騎手の手綱の操作は何の効果もありません。むしろ手綱を控えればそれだけ馬の背中が硬くなるという悪循環になってしまいます。それだけではなく、馬体も傷める原因

②ある騎手は、馬が前へ突き出す口向きの抵抗を取り除くために、拳を左右に抜き差ししながら頭頸を丸めこむような形にしてしまうことがあります。これは、一見すると騎手の扶助に馬が従っているように見え、実際に乗りやすく感じます。しかし、この状態になると、後軀との繋がりが無くなるばかりか、馬のバランスが前へ崩れやすくなり、前にもたれる馬のスピードがコントロールできなくなります

①も②の場合も、馬が全速力で走れば本来持っているバランスを保とうとして元に戻ることがほとんどです。しかし馬は、騎手のどの扶助に対しても受け入れなければコントロールのなされた正しいトレーニングはできません。

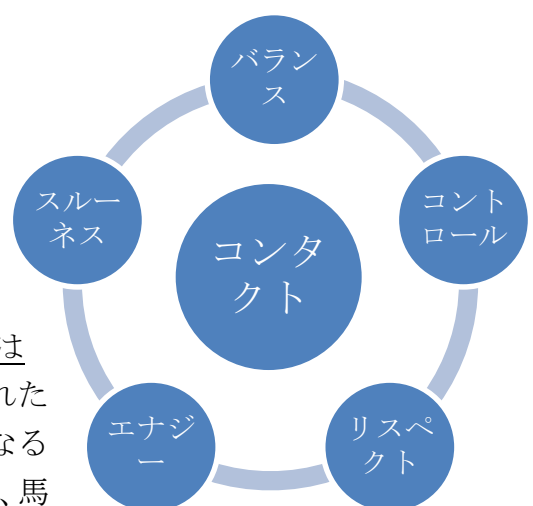
騎手が手綱を控えて馬に力を溜めるように指示を出したとき、馬が馬体を沈めて「待つ」ことができれば、折り合いが付かず馬とケンカする必要もなく、無駄に力をロスせず、馬の意志で力を蓄えることができるのではないのでしょうか。

4. ハミ受けの調教法

ハミ受けの必要性

「馬術に求められているほどの^{くつとう}屈撓を伴ったハミ受けは、競走馬には必要ない」ということは明らかにしました。しかし私は、それは「競走馬に対して」必要ない訳で、「騎手にもハミ受けをさせる技術は必要ない」とは考えません。なぜなら、上記3. で例に挙げた体勢が崩れた馬のバランスをもとに戻すには、騎手の技術が必要になるからです。騎手の正しいハミ受けをさせる技術によって、馬は正しい体勢を取り戻すことができます。

競走馬に馬術を教えるはいけません。特に表面上だけの馬術の真似事は競走馬にとってはマイナスになることがあるでしょう。



しかし、騎手が馬術的な扶助や感覚を持っていることは有効と考えます。もちろん競走馬を馬術用馬のような要求をすればマイナスですが、馬術的な感覚を体勢の崩れた競走馬や、騎手の扶助に集中する主従関係の確立などに利用することは大いに有効と考えられます。

ハミ受けの主な目的は、馬のバランスを正しい位置に修正するためと、コントロール性を向上させるために利用します。

ハミ受けによって馬とのコンタクトが生まれます。そのコンタクトが正しく機能すると、バランス維持、コントロール性の向上、人馬間のリスペクト、エネルギーの充満、スルーネス(透過性：馬の後軀から腰背頸を通り口まで推進力が通っている状態)の確立がもたらされます。

「ハミ受け」や「馬術」という枠を越えて、馬が心地良く居られる体勢を作るために騎手がすべきことを考えてみましょう！

Above (アバブ：頭頸を上げる) パターン

これは、上記3の①のパターンです。このパターンの修正について手順を追って説明します。

○原因

馬がこのような体勢になる原因は色々考えられます。その殆どが騎手の不快な拳の操作から逃れるためです。要するに騎手の手綱の操作方法に問題があることが多いと分析できます。先ずは、馬のせいにならず、自分の操作が馬に受け入れられているかを疑いましょう。

○対処法 頭頸の屈曲を利用する

- ・馬がハミの作用を嫌って頭を上げている場合

頭頸を上げている馬はメンタル的にもフィジカル的にも緊張している状態です。例えば、その状態から脱するために騎手は両方の手綱で押さえつけても、馬はそのハミへ掛るプレッシャーが苦しくて強く反抗し、再度頭を上げてしまいます。

そこで、馬を真っすぐに歩かせながらも片方の手綱で馬の頭を横へ向けてみましょう。その程度は馬によりますが、例えば右に向かせようと拳を使っても馬が右に向かなければ馬に通じていない騎手の扶助は意味がなかったこととなります。そのため、騎手の意志が馬に伝わる強さを自分なりに見つけます。

ここで大切なのが、ただ強くなったり雑になったりして馬の口角に強く当たることによって更に馬の気持ちを逆撫ですることになったり、パニックにしてしまうことです。

そうならないためには、強い扶助の使い方が重要です。具体的に言うと、強い拳の扶助は一時的に留めるべきで、例えばおおよそ3秒ほど強い作用を求めたら一旦緩めるべきです。そして新たに扶助を出し直します。それらを繰り返すことによって馬の理解を得ていきます。がんじがらめに強い扶助だけを使って馬を征服しようとするれば、馬の反感を買うことになるだけで良いことはありません。「馬に考えさせる時間を与える」ことができる騎手でなければなりません。

更に具体的な扶助を考えてみます。私が良く使う方法は、以下のとおりです。

1. 輪線運動で乗ります（大きな輪乗りなど）
2. 内方脚で馬を外に押し出します
3. 外方手綱で外に出てきた馬体を抑えます
4. 内方手綱を開き馬の頭を横へ向けます
5. 馬が少しでも横に向けば、その作用を緩めて褒めます
6. 馬の頸が下方へ向かえば更にそれを助長するように手綱を緩めます

ハミ受けがもたらす副産物として、「透過性」があります。「透過性」とは、後肢から生まれた前進氣勢を馬体を通して馬の口まで通っている状態をいいます。頭が上がったり、肩から逃げていたりすれば、せっかくの推進力が前へ抜けて行かずに早く走ることもできません。

●誤った対処法①（左右の拳を抜き差し）

馬の形を作るには手っ取り早い方法ですが、のこぎりを使うようにギコギコ拳を動かすと馬は何も考えず頭を下げるだけで、また頭がムキムキと上がってくるでしょう。そしてまた拳をギコギコ…この繰り返しです。馬に納得してもらおう解決法に切り替えましょう！

●誤った対処法②（両手綱で抑え込む）

この方法は、両拳で馬の口を固定して頭を上げようとする馬を抑え込む方法です。これでは馬が苦しくなり大爆発を起こしてしまいます。馬の気持ちになってください、当たり前でしょう。強い力の拳を使うことを否定はしません。そういう状況も考えられるからです。しかし、強い力の拳は慎重に、そしてできるだけ短時間で使用しなければなりません。

クローズアップ

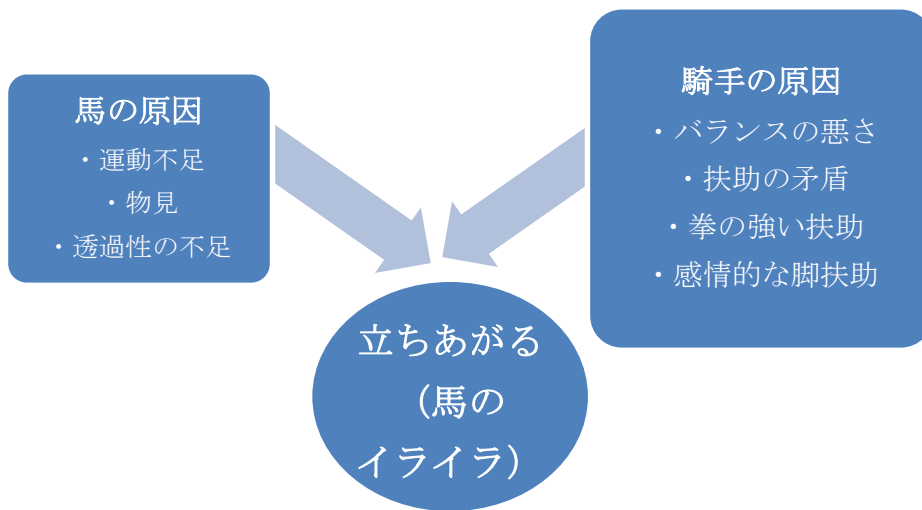
「立ち上がる馬」

このコーナーにおいては、確証はないけど私が個人的に思う意見を述べさせていただきます！上記の解説のように難しい話は抜きにして、でも、馬に対する真摯な技術を身に付けるための「何か」を考えて行きます！

最初の話題は、「立ち上がる馬」です。みなさん一度は馬の背に居る時に立ち上がられた経験があると思います。ここでは、立ち上がった時の対応と対策を馬の気持ちになって考えてみます！

まずは、馬が立ち上がる原因について考えます。

○原因



どうですか？「騎手の原因」のほうが多いのが分ります。自分に思いたることがありますか？しかも、馬の原因も騎手が解決できるものばかりです。それでは一つずつ考えてみましょう。

まずは「馬の運動不足」についてです。これは単純に体力が充満している状態なので、非常に危険です。騎乗前にロング場で調馬索をするなどして発散させることも必要です。

「物見」については、馬によって差はありますが、騎手に耳を傾け運動に集中できる環境を整えてやると治まるようになります。これについても次号以降に考えましょう！

○騎手の安全対策

騎手が解決しようとしている途中で立ち上がってしまった場合はどうしたら良いでしょうか？騎手が、立ち上がってしまった馬に対して安全に対処するために以下の手順で対応します。

馬が立ち上がる→①上半身を前に倒す→②両手を前に出し馬の頸を抱える→③両脚で挟む→④どちらかの手綱を開き頸を横へ向ける→馬が元に戻る

これら一連の動きを立ち上がった瞬間に同時に行います。

しかし、馬の立ち上がり方にも色々あります。突発的にひっくり返る場合が最も危険です。まずはそうならないように以下の解決策を馬との間に約束事を構築しておく必要があります。



○馬の解決策

反抗の方法として立ち上がることを覚えた馬は、簡単には解決しません。しかし、騎手の扶助がソフトになり、ハミ受けなどの体勢をとり透過性を得た馬は、立ち上がる仕草をする必要もなくなります。立ち上がる馬は、たいてい騎手の扶助には反抗的です。なぜ反抗するのかと言えば、騎手から出される扶助に馬が矛盾を感じているからです。本質的な解決は、

上述した「頭頸を上げるパターン」の解決法を実践していくことにあります。騎手が与えた前進氣勢を馬がストレスなく後躯から腰、背、頸、頭、口へと抜けていける環境（透過性）を作り出すことで馬は矛盾を感じなくなります。そして、騎手が常に馬の気持ちを理解しようと歩み寄るスタンスを持って接することにあります。

次号 Vol.3 予告

・ハミ受けの調教方法

Below（ビロー：頭頸を下げてバランスを低くするパターン）の解決方法について詳しく解説します。クローズアップのコーナーもお楽しみに！

☆北原広之（きたはら ひろゆき）JRA 馬事公苑所属☆

私は競走馬の調教は全くの素人です。しかし、元競走馬サラブレッドの乗馬への再調教を多く行ってきました。また馬体の大きなヨーロッパの乗用馬の調教もしています。そしてそれらの馬を出来るだけコントロールできるように試行錯誤しています。私は、馬に対して「強制する」ではなく「協力し合える」を目標として調教しています。機械と違って我々と同じように考えることができる馬は、我々が意図していることを理解すれば「協力」してくれます。今後もその方法を模索しながら追究していきます。

また、今後は皆様からのご質問も受けていきたいと思えます。どんなことでも結構です。悩まないホースマンなんていません！一緒に考えて行きましょう！

hiroyuki_kitahara@jra.go.jp

